

平成11年度丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

丸亀市教育委員会  
平成12年3月

## はじめに

丸亀市内遺跡発掘調査は、国庫補助事業として文化庁及び香川県の補助を得て、市内に所在する埋蔵文化財の保存・保護を目的として、遺跡の所在や範囲、性格を確認し、丸亀市遺跡地図を完成させる事業です。

一方、本市は総合運動公園整備事業などの大規模な都市・開発工事が着手・計画されておりますので、丸亀市教育委員会としても埋蔵文化財の保護を円滑に進めていく必要があります。遺跡を保護するための資料収集は責務といえます。

今回、これらの成果を市内の子どもたちに公開し、身近に郷土の歴史にふれさせたことは、丸亀教育として価値ある学習と考えております。今後も市内にある埋蔵文化財の保護に努め、これらの遺跡を積極的に周知していき、郷土を愛する気持ちを育てる役割を果たす事業にしていきたい。

平成 12 年 3 月

丸亀市教育委員会  
教育長 小佐古 公士

## 例 言

1. 本書は国庫補助・県費補助を得て、丸亀市教育委員会が実施した平成 11 年度丸亀市内遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 今回実施した発掘調査は、丸亀市金倉町 961 - 1・961 - 2・948 - 1・949 - 1 番地の総合運動公園整備事業に伴う調整池建設工事のための調査と丸亀市垂水町 1594 番地の遺跡確認調査である。
3. 丸亀市金倉町の発掘調査は丸亀市教育委員会文化課副主任東信男が担当し、北山多佳子と高木健一が調査補助をした。丸亀市垂水町の発掘調査は東信男と北山多佳子が担当した。本書の執筆、編集は東信男が担当した。
4. 挿図の一部に国土地理院地形図丸亀、善通寺（1/25,000）を使用した。また実測図の縮尺はすべてスケールで表示した。
5. 遺構の実測は東信男と北山多佳子が行い、四国学院大学の白神賢士と桃田昭芳の協力を得た。遺構のトレースは東信男と北山多佳子が担当した。
6. 出土遺物の実測及びトレースは東信男と北山多佳子が担当した。
7. 遺物の写真は東信男が担当した。
8. 出土遺物と図面・写真は丸亀市金倉現場事務所で保管している。
9. 発掘作業は、獅々堀隆司・森崎義信・山下俊行・宮武哲也・樋笠和子・宮武恵美子・宮武セキ子・高木裕子・横山紀代子・川上三千代・松本益子・宮本五月・白神賢士・桃田昭芳各氏の協力を得た。
10. 本書の執筆にあたっては、本田哲士・宮川ユキ・三宅亨・片桐孝浩・佐藤竜馬・笹川龍一・山元敏裕・川畑聰・大島和則各氏の助言・協力を得た。施設使用に関して、垂水小学校、垂水公民館の三原久可・大岡由美子・津島クニ子各氏の協力を得たので、記して謝意を表する。

## 目 次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 調査の概要	1
A 中の池遺跡	1
B 垂水妙見遺跡	2
第3章 おわりに	7

## 図版目次

A 中の池遺跡	
第1図 調査位置図	1
B 垂水妙見遺跡	
第2図 調査位置図	2
第3図 遺構平面図	3
第4図 土層図(東壁)	
(溝状遺構1・溝状遺構2・溝状遺構3・溝状遺構4・竪穴住居・溝状遺構5①・②)	3
第5図 出土遺物実測図 (溝状遺構1・溝状遺構2・溝状遺構5上層)	5
第6図 出土遺物実測図 (溝状遺構5下層・第4層・第3層・表採)	6

## 写真目次

A 中の池遺跡	
図版1 調査区全景 南から	8
図版2 自然流路 南から	8
B 垂水妙見遺跡	
図版3 調査範囲設定 北から	8
図版4 調査区全景(柱跡・土こう・溝状遺構1・溝状遺構2) 北から	8
図版5 竪穴住居跡 北から	8
図版6 溝状遺構3と溝状遺構4 北から	8
図版7 溝状遺構5 南から	8
図版8 垂水小学校現地見学会	9
図版9 溝状遺構1出土遺物	9
図版10 溝状遺構2出土遺物	9
図版11 溝状遺構5上層出土遺物	9
図版12 溝状遺構5下層出土遺物	9
図版13 第4層出土遺物	9
図版14 第3層出土遺物と表層出土遺物	9

## 第1章 調査に至る経緯

平成11年度丸亀市内遺跡発掘調査事業は、国庫補助事業として文化庁と香川県の補助を得て丸亀市が実施した。調査は丸亀市教育委員会で行い、本年度は丸亀市金倉町字道上の総合運動公園整備事業に伴う調整池建設工事のための調査と丸亀市垂水町字妙見の遺跡確認調査をした。特に垂水町字妙見では、昭和52年の農業水路改良工事のとき、県内でも古い時期に属する須恵器の大甕が発見されている（『瀬戸内海民俗資料館年報第5号』・『垂水町史』）ことから、今回の調査はこの水路のすぐ東隣で行い遺跡の有無を確認した。

## 第2章 調査の概要

### A 中の池遺跡

1. 調査目的 総合運動公園整備事業に伴う調整池建設工事のため
2. 調査場所 丸亀市金倉町 961-1・961-2・948-1・949-1
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東信男・北山多佳子・高木健一
5. 調査期間 平成11年10月20日～11月1日
6. 調査面積 3ヶ所 約228㎡
7. 調査方法 掘削断面と平面の精査
8. 土層状況



第1図 調査位置図

基本的な土層序は、第1層（耕作土）、第2層 灰黄褐色シルト層（耕作土床土）、第3層にぶい黄橙色シルト層、第4層にぶい黄橙色シルト層（弥生時代のベース）、第5層浅黄シルト層、第6層黄橙色シルト層（地山）である。

9. 検出遺構 柱跡・自然流路（弥生時代の遺構面より下層）
10. 出土遺物 なし
11. まとめ

この調査地の西側にある中の池遺跡の調査では、弥生時代前期の遺構を耕作土直下で検出している。今回の調査ではこの第4層にあたる弥生時代の遺構面は、大部分が掘削を受け消失している。まれに柱穴の最下部を確認しているが遺物の出土はなかった。この下層で自然流路が見られる。平池東北部の弥生時代の遺構面は水田耕作により掘削され消失していることを確認した。

## B 垂水妙見遺跡

1. 調査目的 遺跡確認調査
2. 調査場所 丸亀市垂水町 1594
3. 調査主体 丸亀市教育委員会文化課
4. 調査担当 文化課 東 信男
5. 調査期間 平成 12 年 3 月 6 日～23 日
6. 調査面積 約 50 m<sup>2</sup>
7. 調査方法 トレンチ調査。平面・土層断面の精査
8. 土層状況

基本的な土層序は、第 1 層 耕作土、第 2 層 灰黄褐色細砂層（耕作土床土）、第 3 層 黄褐色粘質細砂層、第 4 層 黄褐色粘質細砂層、第 5 層 黒色粘質細砂層・小石含む、第 6 層 褐色粘質細砂層（遺構面）となる。トレンチ中央部より北半部では第 4 層はなく、南半部では第 3 層と第 5 層がみられない。

### 9. 検出遺構

調査は西側の水路と平行するトレンチを設定した。南北約 48m、幅約 1.2m の細長いトレンチで、竪穴住居、溝状遺構 1～5、土こう、柱跡等を検出している。

溝状遺構 1 は調査地の最北端で第 3 層直下から検出した。幅約 1 m で磁北を向く。遺物は置き竈の底部が出土している。7～12 世紀代のものである。

溝状遺構 2 も第 3 層直下から検出した。幅約 2 m でほぼ磁北を向く、溝状遺構 1 から約 9 m 南に位置する。弥生時代後期の壺や須恵器のハソウ、14 世紀の小皿が出土した。

溝状遺構 3・4・5 と竪穴住居跡は第 6 層の直上から検出された。この遺構の直上層となる第 4 層に黄褐色粘質細砂層からは弥生時代中期後半頃の土器片や 7 世紀代の須恵器が出土している。

溝状遺構 3 は幅約 1 m、溝状遺構 4 は幅約 0.8m ある。これらの遺構は約 1.3m 離れて平行している。条里地割の方向と一致する。

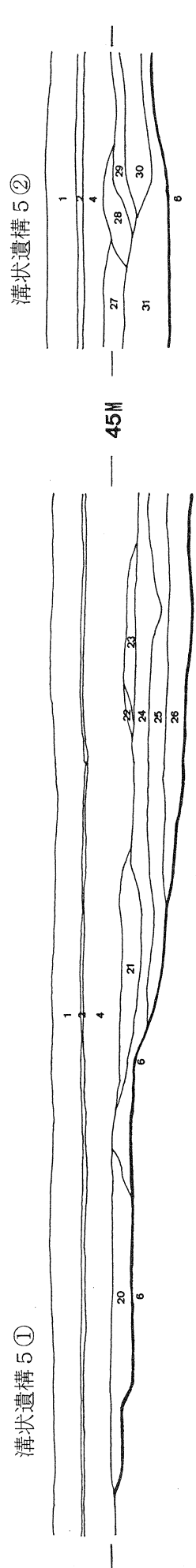
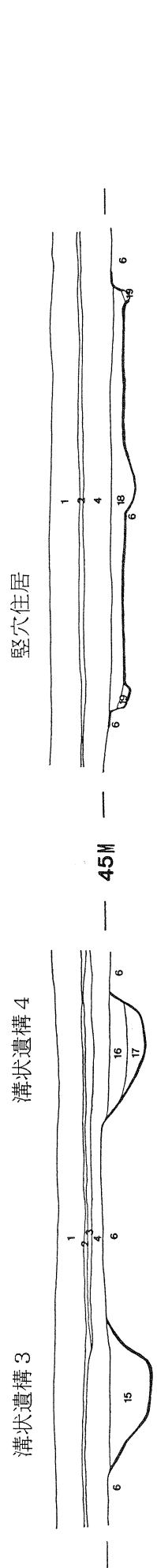
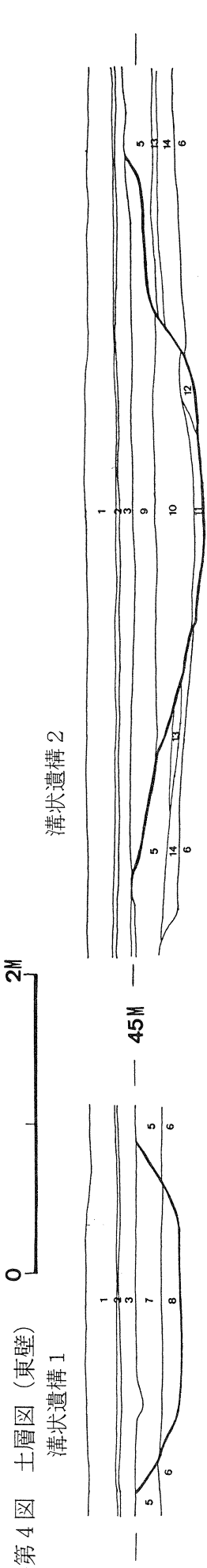
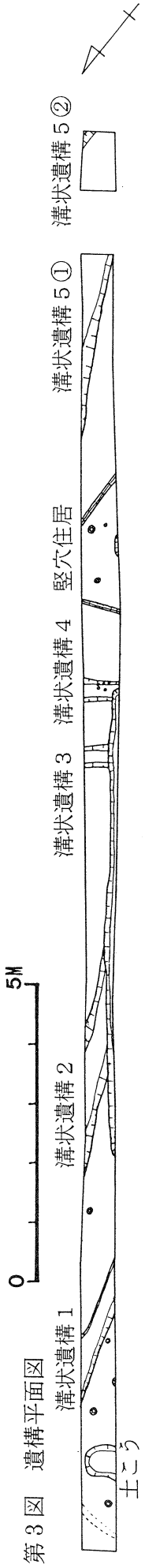
南端の溝状遺構 5 は幅約 3.5m 以上ありほぼ磁北を向く。遺物を多く包含する遺構である。上層は弥生時代中期後半から古墳時代初頭の土器片と 5 世紀後半、6 世紀後半から 7 世紀頃の須恵器が出土しており、下層からは弥生時代後期末から古墳時代初頭の土器片が出土している。これらの遺物はいずれも付近の遺構に伴うものと思われる。

竪穴住居跡は溝状遺構 3 から南側約 2.6m のところで検出した。第 4 層による掘削を受けてはいるが、柱穴とそれを巡る壁溝がある。遺物の出土はなかった。

また、調査地北端から約 1.5m と 4.8m のところで、第 6 層直上に柱穴がある。土層にはこれを囲むような壁溝らしき落ちもみられるが、遺構面が掘削を受け竪穴住居跡であるかの判断はできない。柱穴の間には土こうもあり、この土こうの上面には焦土もみられた。ここから須恵器が出土しているが、小片であり時期や器種は不明である。



第 2 図 調査位置図



土色及び土層

- |   |              |    |             |         |    |             |                |
|---|--------------|----|-------------|---------|----|-------------|----------------|
| 1 | 耕作土          | 17 | 黒褐色粘質土層     | (溝状遺構4) | 25 | 褐灰色細砂層      | 遺物包含下層 (溝状遺構5) |
| 2 | 灰黄褐色細砂層      | 18 | 褐灰黄褐色粘質細砂層  | (竪穴住居)  | 26 | 褐灰色細砂層      | 遺物包含下層         |
| 3 | にぶい黄褐色粘質細砂層  | 19 | 褐灰色細砂層      | (〃)     | 27 | 黒褐色粘質細砂層    | (〃)            |
| 4 | にぶい黄褐色粘質細砂層  | 20 | にぶい黄褐色粘質細砂層 | (溝状遺構5) | 28 | にぶい黄褐色粘質細砂層 | (〃)            |
| 5 | 黒色粘質細砂層・小石含む | 21 | 黒色粘質細砂層     | 遺物包含上層  | 29 | 灰色細砂層・小石含む  | 遺物包含下層         |
| 6 | 褐灰色粘質細砂層     | 22 | 褐色細砂層       | (遺構面)   | 30 | 黒褐色細砂層      | (〃)            |
| 7 | 黒色粘質細砂層      | 23 | 褐色細砂層・小石含む  | (溝状遺構3) | 31 | 黒褐色粘質土層     | (〃)            |
| 8 | 黒色粘質細砂層      | 24 | 褐灰色粘質土層     | (溝状遺構4) |    |             | (〃)            |

## 10. 出土遺物

### 溝状遺構 1 出土遺物 1

1 は置き竈（かまど）の底部である。胎土は1～2mm 程度の砂をわずかに含む。色調は明黄褐色で、外側端部には指圧痕がある。7～12世紀にみられる。

### 溝状遺構 2 出土遺物 2～5

2 は壺で口縁端部が立ちあがる。口縁部凹線の退化がみられることから、弥生後期前半頃のものである。3と4は須恵器である。3はハソウである。5は土師質の小皿であり14世紀代のものである。

### 溝状遺構 5 出土遺物 6～18

上層出土遺物と下層出土遺物がある。上層出土遺物は6～15であり、遺物の時期幅も大きい。16～18は下層出土遺物であり、弥生時代後期から古墳時代初頭のものである。

6～9は弥生時代の土器片である。6は長口壺の口縁である。口縁は直立する。弥生中期後半頃。7は広口壺の口縁である。中期後半から後期前半。8は長頸壺の頸部である。外面にくの字型のへら記号があり、内面には板状工具を用いたなでがある。弥生後期末。9は甕の底部である。外側端部になでがあり内湾する。弥生時代中期後半から後期前半。10は土師器の壺である。口縁はくの字型に外反する。11～15は須恵器である。11は高杯で外面に波状文をもつ。5世紀後半。12と13は杯身である。12は口縁端部に段がつく。6世紀前半。13は6世紀末から7世紀初頭。14は内湾する蓋である。15は口縁に受けがあり、肩部に段を持つ蓋である。7世紀中頃。

16は口縁が立ちあがり段をもつ。酒津式土器である。弥生後期終。17は広口壺口縁である。弥生後期末。18は壺の底部である。丸底となる。弥生後期末から古墳時代初頭。

### 第4層出土遺物 19～26

19～23は弥生時代の土器片で、19と20は甕で口縁端部に凹線をもつ。21は甕の底部である。22は高杯の脚部である。23は高杯で口縁が立ちあがり、2条の凹線をもつ。吉備系の土器である。いずれも弥生時代中期後半から末のものである。

24と25は須恵器である。24はハソウである。25は杯身であり、6世紀末から7世紀初頭のものである。26はサヌカイトの石鏃である。長3.6cm、幅2.3cm、厚さ3.8mmある。

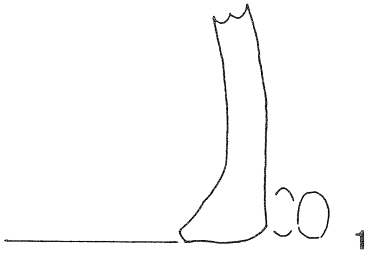
### 第3層出土遺物 27・28 と表採遺物 29～31

27と28は第3層出土遺物であり、29～31は表採遺物である。27は須恵器の高杯の脚である。7世紀中頃から後半。28は13世紀の瓦器碗である。29～31は須恵器であり、29は杯蓋で7世紀中頃以降、30は小型の杯蓋で7世紀中頃。31は蓋である。

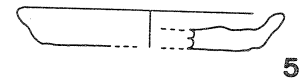
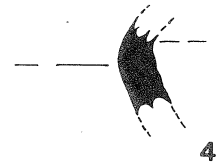
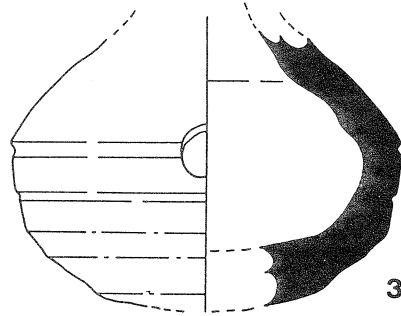
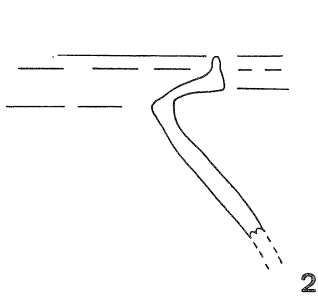
## 11. まとめ

以上のことから調査地及び周辺部にはこれらの遺構や遺物に関連する集落遺跡があると思われる。今後も確認調査を行い遺跡の広がりを確認する必要がある。

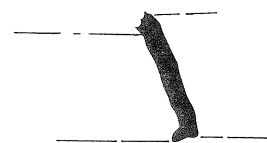
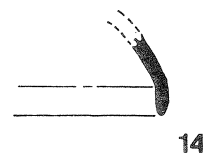
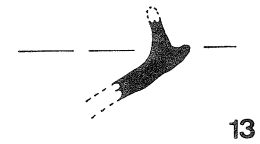
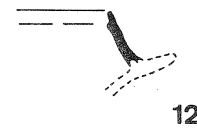
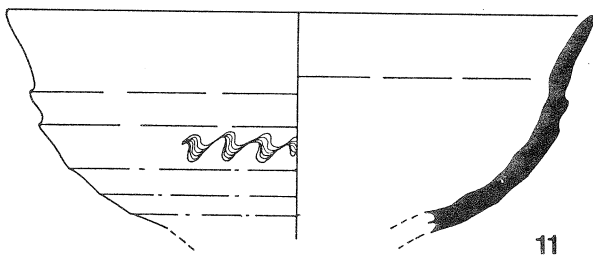
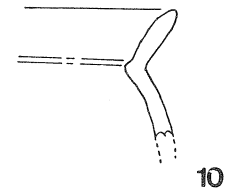
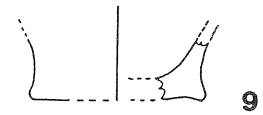
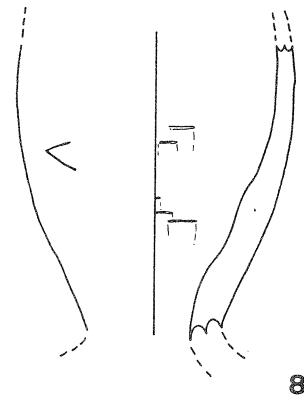
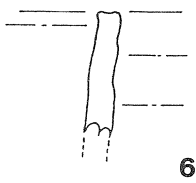
溝状遺構 1 出土遺物



溝状遺構 2 出土遺物



溝状遺構 5 出土遺物 (上層)

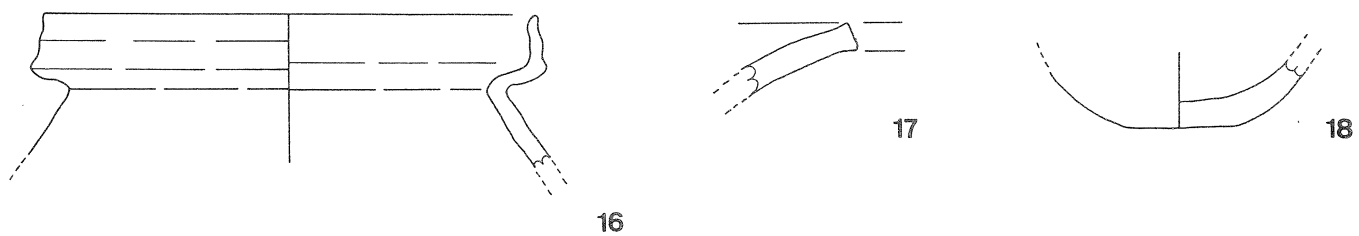


0 5CM

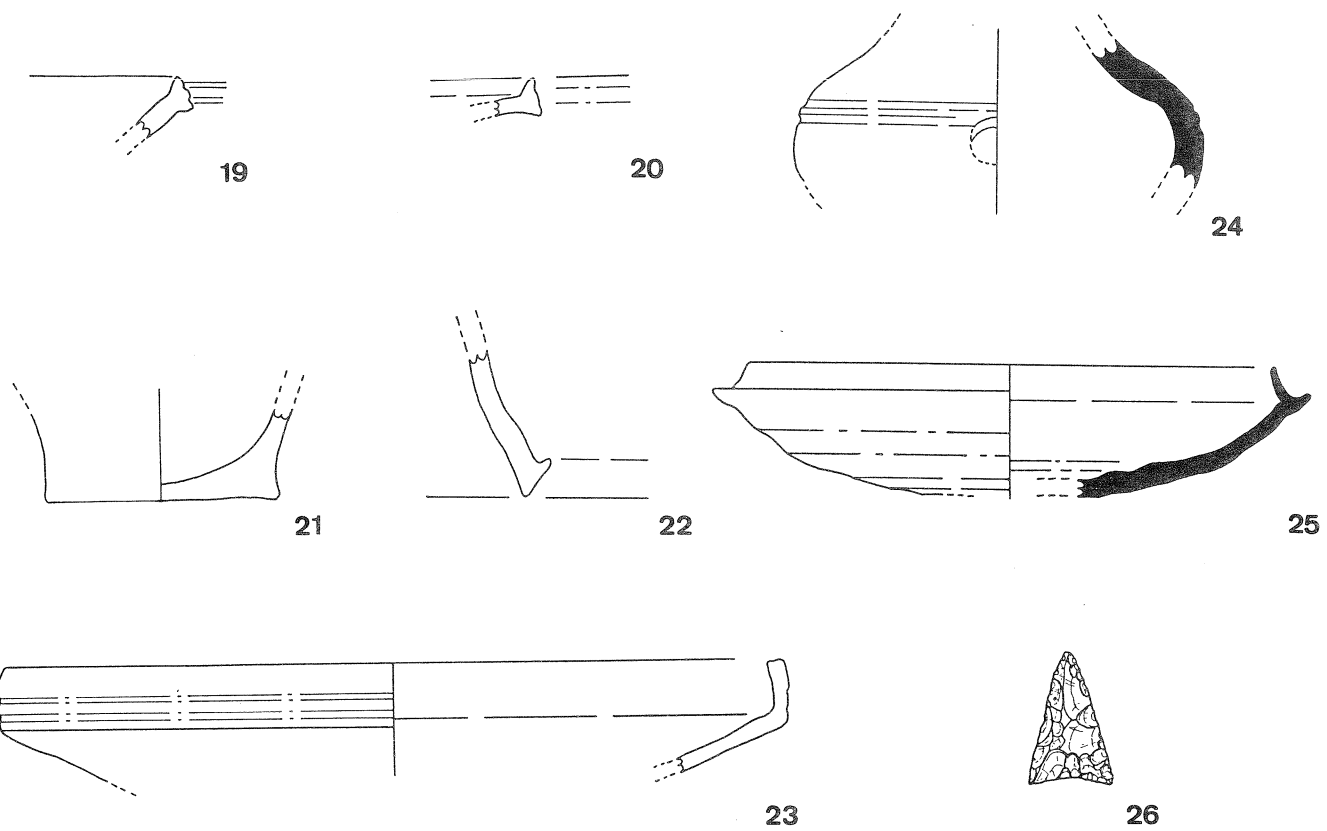
第5図 出土遺物実測図



溝状遺構 5 出土遺物 (下層)



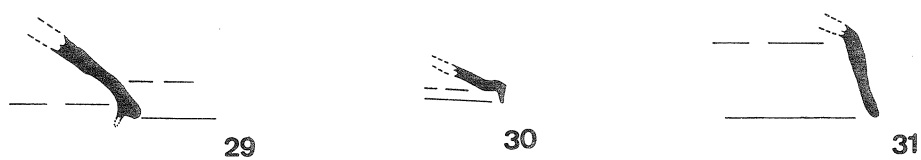
第 4 層出土遺物



第 3 層出土遺物



表採遺物



第 6 図 出土遺物実測図

0 5CM

### 第3章 おわりに

丸亀市金倉町の総合運動公園建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、調査地の辺りは水田耕作によって弥生時代前期の遺構面が掘削を受け、遺構の底部しか残っていないことを確認した。昨年度の調査成果と同様の結果であり、平池東北部では耕作土直下の遺構面は消失していると考えられる。ただし、弥生時代の遺構面より下層で黒色シルト層のある自然流路を検出している。この面から平池西遺跡では流木や植物遺体とともに縄文時代晩期の土器・石器が出土している。今後の調査ではこの層の検出があれば遺物の有無を確認する必要がある。

丸亀市垂水町字妙見では昭和52年の農業水路改良工事により、5世紀中頃の須恵器が出土している。今回の調査で検出した南端の溝状遺構5から弥生時代後期の土器片に混ざり、5世紀後半に相当する須恵器の高杯が出土している。調査範囲が限られたなかで竪穴住居跡や溝状遺構を検出し、弥生時代後期から古墳時代、中世の遺物が出土している。これらに関連する時期の遺構があることを確認した。しかし、今回の垂水妙見遺跡の調査は重機の入らない場所であり、人力による掘削作業となったため、トレンチの幅が狭く、遺跡の性格や範囲について確認できなかった。周辺の地形からみると集落遺跡が所在すると思われる、開発事業があれば対応する必要がある、今後も確認調査を行い遺跡の広がりを確認する必要がある。



A 中の池遺跡

図版1 調査区全景 南から



図版2 自然流路 南から

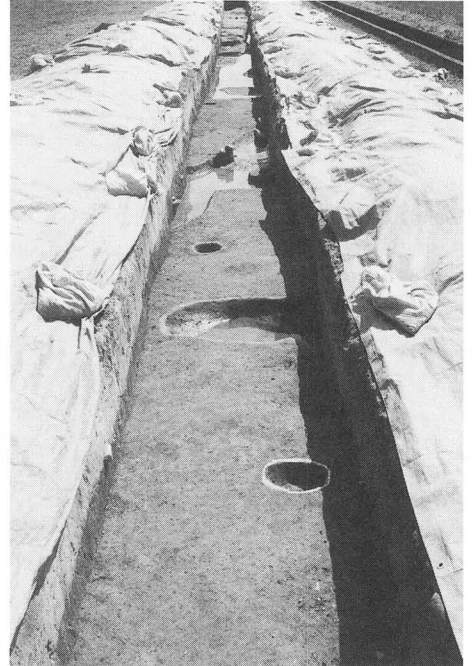


B 垂水妙見遺跡

図版3 調査範囲設定 北から



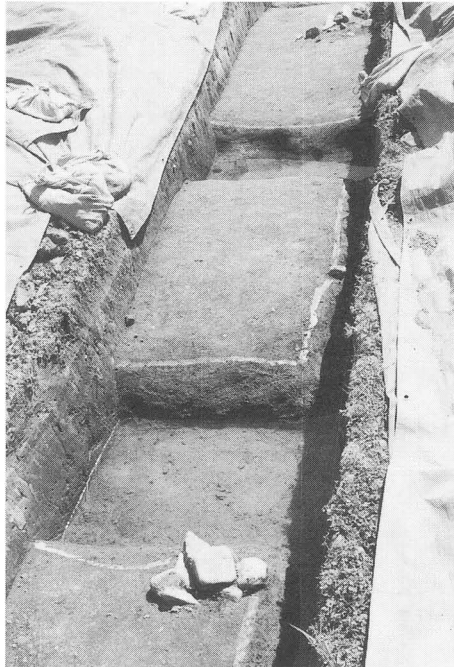
図版4 調査区全景  
(柱跡・土こう・溝状遺構1・溝状遺構2) 北から



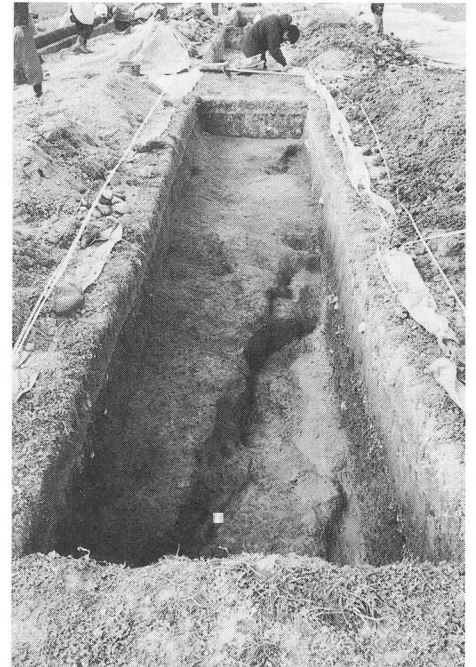
図版5 竪穴住居跡 北から



図版6 溝状遺構3と溝状遺構4 北から

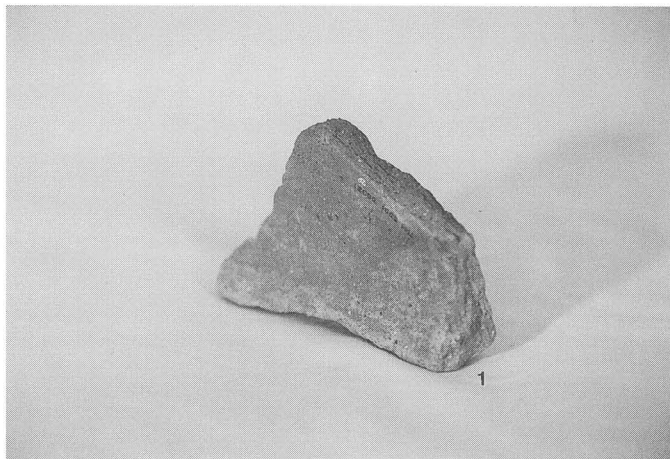


図版7 溝状遺構5 南から

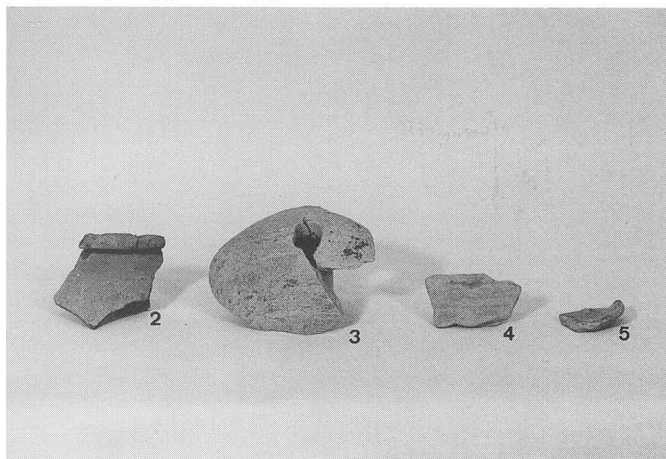




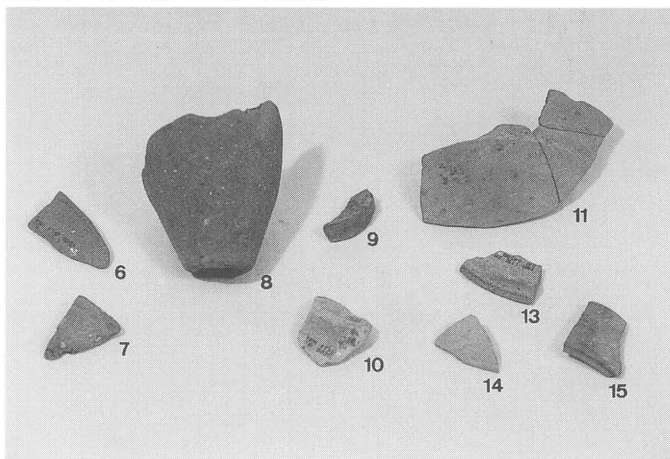
図版9 溝状遺構1出土遺物



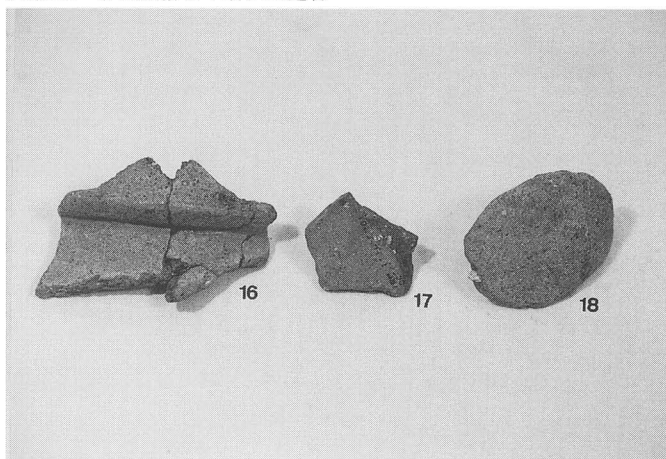
図版10 溝状遺構2出土遺物



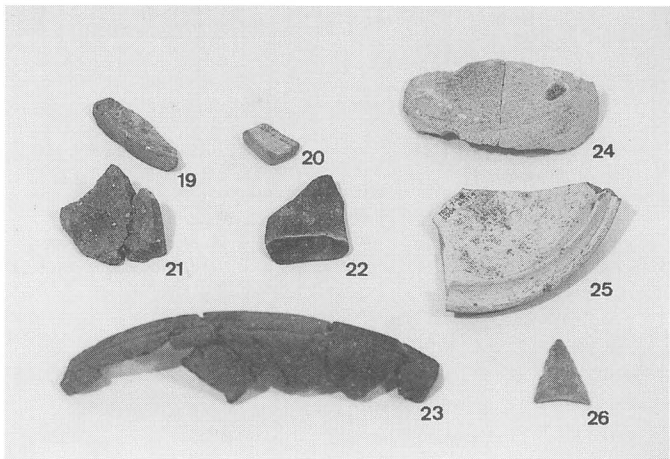
図版11 溝状遺構5上層出土遺物



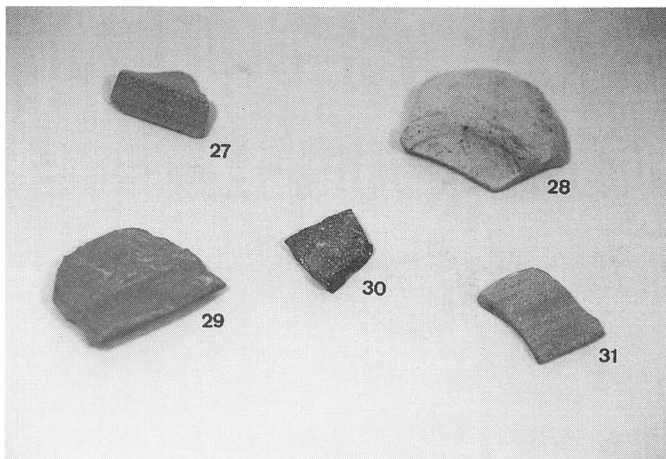
図版12 溝状遺構5下層出土遺物



図版13 第4層出土遺物



図版14 第3層出土遺物と表層出土遺物





# 報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅういちねんどまるがめしなにいせきはつくつちょうさほうこくしよ							
書名	平成11年度丸亀市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	東 信男							
編集機関	丸亀市教育委員会							
所在地	〒763-8501 香川県丸亀市大手町二丁目3番1号							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかのいけいせき 中の池遺跡	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 かなくらちょう 金倉町	37202	78	34° 15' 47"	133° 48' 05"	1999. 10. 20 ～ 1999. 11. 1	228	総合運動 公園整備 事業
たるみみょうけんいせき 垂水妙見遺跡	かがわけん 香川県 まるがめし 丸亀市 たるみちょう 垂水町	37202		34° 14' 40"	133° 49' 50"	2000. 3. 6 ～ 2000. 3. 23	50	遺跡確認 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中の池遺跡			柱跡（底部のみ）	なし		遺構面の消失 自然流路		
垂水妙見遺跡	集落	弥生後期 ～ 中世	竪穴住居 溝状遺構	土器片 弥生土器（壺・高杯・ 長頸壺） 須恵器（高杯・杯身・ 杯蓋・ハソウ） 中世遺物（皿・甕） 石器（石鏃）				

平成11年度  
丸亀市内遺跡発掘調査概要報告書

平成12年 3月発行

編集 香川県丸亀市大手町二丁目三番一号  
発行 丸 亀 市 教 育 委 員 会

印刷 (株) 四 国 工 業 写 真